

# 連文

R E N B U N



Vol. **114**  
2023.1



# 伝統と多様性の時代に

あけましておめでと〜ごちがいます。

新しい時代に連文はどう寄り添っていきけるのか、誌上対談形式で名も無き若い会員に、特にテーマを決めずに連文についての新春放談？をお願いしました。

新春  
放談

## 新しい時代に連文はどう寄り添っていきけるのか

連文に入会する時ってどんな感じでした？

●わたしの場合は展覧会などで複数回入賞し、会員に推挙して頂くという過程を経て入会しました。一定の評価を得られるという点で会員になれたときは嬉しさと誇らしさもありました。が、入会条件などが曖昧になっていくにつれ、誇らしさが薄れてしまった部分も感じます。

●部によって、入会の条件というか、審査なんかは結構曖昧ですよ。

●時代に依りて柔軟に変化していくことは大事であるし、人数を維持拡大することはとても大切だと思いますが、問口の広げ方は慎重になる必要があるのか

ではないかなとも思います。入会に必要な条件や基準がころころ変わるのはいかがなものか…という団体なのか根幹の部分がブレしているような気がします。土台が安定しておらず不安定な団体という印象を与えかねない危惧も感じます。

●最初に連文という団体を意識したのはコラボレーションイベント。単純に楽しそうだなという印象でしたが、実際に入会すると垣根を超えた横の繋がりはあまりなく、部の活動で完結していましたね。

●もともと活動単位の基本は部であると思うし、まずは同じ分野の人たちと親

交を深めることが大切だなとも考えて過ごしてきました。同じ分野の人とつながる機会がなかった私にとっては、連文の存在はありがたいものでした。

●逆に言えば、同じ分野で繋がる機会が他にあるような方にとっては、部を越えた連携などが無いと連文の魅力は下がってしまうという印象。

●人によって、または活動する分野によって連文に期待することが違うのではないかと思います。同じ分野で繋がれたらそれだけで満足という人もいれば、垣根を越えた連携をしたいと思う人もいます。後者は現在の活動内容では不満があると思いますが、前者は今現在の活動量でも満足していることも多いのかもしれない。

●ですが、せっかく多種多様な分野の人間が集まっているのだから、わたしたちにはうまく使って発展させたいと思います。何かと難しいですね。

●反省点はあるものの、個人的には色々な分野の人と一緒に実施した青年部有志でのドクターブンブンがとても楽しかった。この楽しさをうまく伝えられるような活動をしていけたらいいなと思います。

## ここ数年の連文の活動って

どんなイメージですか。

●連文に熱い思いを持った人と、籍を置いているだけの人の温度差がかなりあり

るような気がしますね。たくさんの方がいるのに、委員会などは一部の人が兼任してやりくりしているような。

●それに何年前からはいろんな会議の内容がホームページにもアップされるようになり、なんとなく運営の流れはつかめるようになりましたが、それ以前は重要なことでも、きちんと説明がなされず、いつの間にか決まっていたことも多かったですね。

●これまでちゃんと声を上げてこなかった代償というか、一部の人たちで決めてそれを良しとして来た(任せっぱなしにしていた)環境がそういう体質を生んだ。誰が悪いということではなく、みんなで考えるときだと思えます。

●コロナ禍で中止となった直近のものだけでなく過去の分も含めて、連文周年事業は誰がどういう場で協議し、何がどう決まっているのかなど理解出来なままとりあえず進んでいってました。自分の部は何をするのかについても、部の会員に情報をおろす部長さん自身も理解されていないという状態で結構混乱が生じていた気がします。

●コロナ禍で部の定例イベントも中止が続いたことで、つながりがさらに希薄になってしまったのかもしれない。危機感は覚えつつも何も出来ないままというか…。年齢や体調面が理由の方も多いと思われませんが、結果として退部する人が多数出てしまった部もあり

ますね。

●今年度になってようやく活動を再開出来ました。集客や会員減など課題は多い。問題意識はみんな持っていると思います。人任せじゃなく、一人一人が考えていくことが大切だと思います。

●同じジャンルのような部門の両方に所属する意味がよくわかりません。

●総合文化部門の今回の部門イベントは興味深いものでしたが、以前は各部門を横断するような企画もあったのに、いまは逆に分断が進んでいるように思えますね。複数の部門とのコラボレーションは、総合文化部門がやればいい、というふうな…

●連文の中にもう一つ連文があるような感じですね。

●他の部門との接点がなければ、連文として集まる意味もないのではないのでしょうか。

### 連文の会員であることを誇りに思いますか？

●連文以外の人に入ってるメリットを聞かれても堂々と答えられません。連文だから出来ること、連文だから出来ることをもっと増やしていきたいです。

●年一百万の会費は、はたして安いのか、高いのか。他人に入会を勧めたいかというのと何とも答えられないです。

●それと・予算が不平等(苦笑)

### ほかに最近の活動について。

●ホームページやSNSもあり便利で情報が早くなっていますが、十分に活かされていない気がします。

●会議やイベントの出欠を取るときはハガキとかの郵送ではなくラインなどにしてほしいです。ライングループを活用すれば返事も楽だし、出席者の把握もしやすいので無駄な手間や出費も省けると思います。

●新しいものは無理だと最初から決めつけず、せめてチャレンジはしてほしいです。

●先輩の方でも結構家族間とかでラインは使っている印象がありますけどね。

●高齢の方でも日常的に必要があれば(仕事のほか、子や孫とのやりとりなど)年齢関係なく使いこなせると思うが、そういう環境になればスマホは持っていても電話専用。そこにいくら便利だと伝えても心理的な負担を感じる方が大きいのは仕方ないことなのでは。(使い方を説明することは出来ても、そもそもスマホの契約形態を変えてもらう話になると、そこは厳しいなと感じる。ネットリテラシーを持ってもらうよう伝えなければ、そこは無責任になってしまう気がする)

●まずパソコンやタブレットを使って便利だなと実感してもらうことが重要だと思いますが、いい案は浮かびません…



## No Art, No life

めた「久留米文化の会」を経て現在の久留米連合文化会へと発展してきました。

…主宰者無し細規無しと言つ珍らしい構成のもとに、各自の良心による輪と進歩的知知的な精神による不文律により結ばれて…

\*2  
1936年3月  
人民良心と人格自由の名において  
久留米リベルテの会

### 迷ったときには原点を見つめる

さてさて、いろんな話が飛び交ってますが、コロナ禍での停滞はあったにせよ、今後の活動を活発にしていこうという意味では、いろんなサゼッション(提案)を含んでいるようにも思います。

新しい連文がどういう方向性を持つべきなのか、いろんなご意見があると思いますが、迷ったときには原点を見つめてみることも重要です。

連文は戦前、詩人の丸山豊氏や岸田勉氏、画家の内野秀美氏などが立ち上げられた「リベルテの会」に端を発し、戦後まだ荒廃していた時代にいち早く活動を始

なんと代表者無し、規約無しでスタートした先輩諸氏。現在、連文は500人を超す大所帯で、もちろん団

としての形を整えることは最低条件ではあるのですが、多様性が再認識されている昨今、伝統の文化と新しい多様性の社会に於いて、今一度、何故に文化芸術の世界に身を置いているのか、まだ見ぬ新しい分野に学ぶことも含め、見つめ直すことも大切だと思います。(広報委員会)

\*1 インターネットに対する理解

\*2 引用の「緑の追想」連文への道 他の原稿はホームページ上でいつでも読むことが出来ます。

久留米連合文化会 E-roads  
<https://renbun.jp/about/index.html>



## 令和元年度 久留米市表彰

11月3日(文化の日)市の表彰式が行われました。連文会員で芸術奨励賞を受賞された皆さんをご紹介します。



### 芸術奨励賞

芸術分野で今後の活躍が期待される人に贈られる賞です。

#### ■彫刻部 小森博之



世話になってきた皆さまのおかげで心より感謝しております。

彫塑は10年程前から始めましたが、以前より懂れていた立体作品づくりは、始

めてみると想像以上に重労働で大変な仕事でした。しかし同時に、求める形が現れてくる一瞬一瞬は、この上なく楽しい時間でもありました。

昨年、洋画部の会員にも推挙していただき嬉しく思っています。気持ちも新たに、平面と立体の両面から制作に励んでいきたいと思えます。ありがとうございます。

#### ■書画文化部 野田弘樹



この度は、  
荣誉ある賞  
を頂き、素  
直に嬉しく  
感じています。

今まで、ご指導頂いた先生方、また私とこれまで縁が繋がってきた方々にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

私が所属しています総合文化においては、素材の和紙にこだわらず、木、樹脂、金属、着照明等に作品を書いたり、色んなジャンルとのコラボレーションで、新しいことに挑戦できる部門でもあります。コロナや世界情勢悪化で、気分的に落ち込みぎみに、なりがちですが、こんな時こそ芸術を愛せる方(創る側、観る側)が、自分がいいと思える事を、世の中に広げていけば、将来明るい未来に変えられると私は信じます。

世の中には完璧な人間はいませんが、だから努力し合うのです、お互いを認め合う事が出来れば、争いが起こるはずが無いと私は思うのです。芸術は最高!!

今後同じ思いのメンバーと共に、楽しんで作品創りに励みたいと思います。

#### ■ステージ文化部 恒松沙季



この度は、  
久留米市芸術奨励賞という名誉ある賞をいただき、大変

光栄に存じます。

音楽大学を卒業し地元久留米の地で活動を始めてから、もうすぐ9年になります。大好きなピアノの魅力を伝えたい一心で活動していく中で、自分の未熟さを痛感し、もどかしい気持ちになったり、悩むことも多々ありました。そんな中でもこうして音楽活動を続けてこられたのは、恩師や家族をはじめ、いつも温かく応援してくださる方々がいたからだと思います。受賞へのお祝いの言葉も沢山頂戴し、一緒に喜んでくれる人がいる心強さも感じました。心より感謝申し上げます。

今後この賞に恥じぬよう、ひたすらに精進してまいります。ありがとうございます。

## 第74回 久留米茶道連合会 法要大茶会

11月13日(日)梅林寺において物故会員の施餓鬼法要とお茶会を催しました。今年も早朝8時、位牌堂において、開山和尚にご献茶ご奉仕、続いて8時半より本堂で物故会員の施餓鬼法要を営みました。この2年ほど新型コロナウイルス蔓延防止の為中止しておりましたお茶会を参加4流、追善の釜をかけて大茶会を行いました。



2022年は、新型コロナウイルス対策の為、参加人員を180名に限定しての開催となりました。このため各席ともゆったりと席を設けて、ゆっくりお抹茶を楽しんでいただきました。久しぶりの小雨で、庭園の紅葉も一段と色鮮やかでした。

(茶道部・田中宗俊)

## 第10回ドクターブンブンアートであそぼう久留米座アート!

ドクターブンブンは、子ども医学部を中心として、さまざまなお仕事にふれることが出来る、子どものための体験・まなび型イベントです。久留米市、近郊にとどまらず県外からの応募もあり、例年1000人以上の子どもたちが興味津々に参加しています。

コロナ禍で2年続けてネット開催となっていました。今年も3年ぶりに久留米シティプラザ全会場を使って実際の体験事業が行われました。

この事業の中で、新たに芸術分野の体験事業として、昨年は連文青年部有志により日舞、洋舞、洋楽、工芸、洋画、書道、



書画、デザインなどの各分野で動画配信を行い、本年は久留米座とロビースペースを使って、さまざまな芸術体験活動を行いました。

久留米座の舞台上で洋舞、洋楽のレクチャー、ロビーでは工芸、書、デザイン等のコラボで、子どもたちにオリジナル手ぬぐいを作成してもらいました。また日舞の会員手作りのストラップを参加賞として子どもたち全員に配布しました。初めての現場開催と云うことで、手探りでの体験活動になりましたが、参加した子どもたちはとても熱心に取り組んでいました。

今回開催はコロナ禍を経て久しぶりの現地開催で、イベント全体の参加数も例年より下回っており、また久留米座での体験活動も宣伝不足もあって参加数は今ひとつでしたが、次回開催に向けて手応えも感じることが出来ました。

近年、教育現場では芸術分野へのアプローチが重要性をましており、次代を担う子ども



たちの体験活動として、総合的な芸術活動を束ねる連文への期待は高まっています。

将来、このイベントを体験した子どもたちの中から、医療をはじめとするさまざまな地場企業で活躍する人材が育てくれればと思いますが、既存の職業にとどまらず、新たな分野への起業など、豊かな感性を発揮して欲しいと願っています。(企画運営委員長・今村好典)

## 第68回 桃青忌俳句大会

コロナ禍もようやく収束に向かいつつある11月12日(土)、御井校区コミュニティセンターにて桃青忌俳句大会を行いました。

寒暖差のある今年の紅葉は更に美しく、桃青霊社を拝し、高良山を散策しました。

選者三名の特選句(◎)佳作句は次の通りです。

大力 妙子 選

◎ 俳縁を深める一と日桃青忌

大日方 明美

繋げたき気に芭蕉忌のこの出会い

吉田 いずみ

芭蕉忌や学び足らざることの悔い

矢野 愛子

野口 桂子 選

◎ 芭蕉忌や学び足らざることの悔い

矢野 愛子

せめて紅葉を俳聖のお社に

酒見 直子

新しき方も迎へて芭蕉の忌

吉田 いずみ

宮崎 みゆき 選

◎ 芭蕉忌や学び足らざることの悔い

矢野 愛子

俳縁を深める一と日桃青忌

大日方 明美

芭蕉忌や句への思ひを深くして

大力 妙子

(俳句部・野口 桂子)

第51回

# 久留米連合文化会会員美術展

## ■会期

「1期」11月9日(水)～13日(日) 彫刻・書道・デザイン

「2期」11月16日(水)～20日(日) 洋画・工芸

「3期」11月23日(水)～27日(日) 日本画・水墨画・写真

## ■会場

久留米市美術館

新型コロナ感染症予防のため2回の中止を経て3年ぶりに開催しました。

出品は洋画31点、日本画7点、水墨画10点、彫刻3点、工芸13点、書道48点、写真25点、デザイン7点、会員賞の11点のは次の通りです。  
(美術部門)

## 会員賞



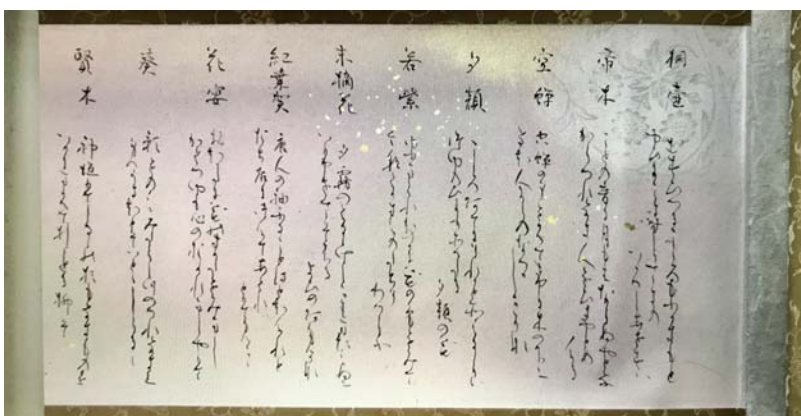
洋画「秋深し」  
太田 喬子 (久留米市)



洋画「作品SD」  
二橋 重美 (久留米市)



彫刻「八月の思い出」  
仲 正彦 (広川町)



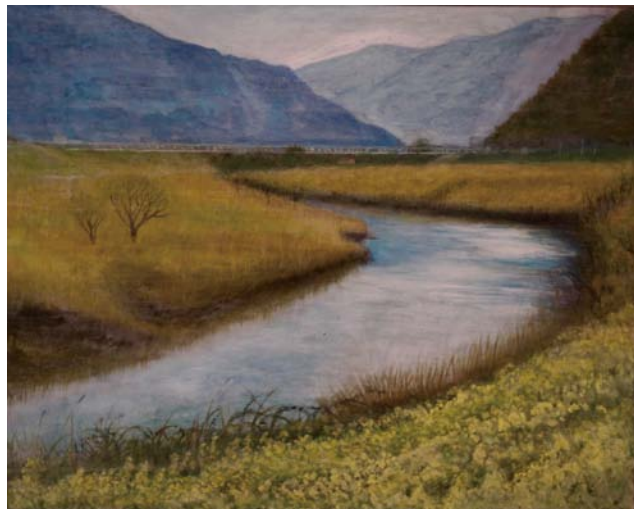
書道「源氏物語」  
鷺頭 裕美子  
(筑後市)



書道「杜審言詩」  
秋山 風露 (久留米市)



写真「月映え」  
橋爪 征夫 (八女市)



日本画「早春」  
佐古 葉子 (久留米市)



写真「紅を差す」  
森田 昭代 (柳川市)



水墨画「風光る」  
稲吉 游信 (久留米市)



デザイン「CHANGE×CHANGE」  
吉崎 勇 (久留米市)



工芸「華」  
橋本 良子 (久留米市)

## 第10回 水墨画部展

令和4年12月13日(火)～18日(日)  
に久留米市一番街多目的ギャラリー  
リーで第10回水墨画部展を開催致  
しました。

寒い中来て下さいました方々に  
は本当に感謝致します。

又、水墨画に興味を持たれた方も  
いらして熱心に質問されました。

今年はスケッチ旅行の予定です。

(水墨画部・古賀 利恵)



## 第41回 会員華道展

令和4年9月8日(木)から9月11  
日(日)、久留米シティプラザ2F展示  
室2・3に於いて開催しました。

コロナ感染拡大が止まず、昨年の  
会員華道展は止むなく中止と致し  
ました。

今年こそはと、9流派、ジュニア  
が集い、日頃の研鑽の成果を皆様にご  
観覧頂くことが出来ました。コロナ  
禍の中感染予防を徹底し、無事、  
盛会に終へることが出来ましたこと  
を会員一同感謝致しております。

(華道部・関 靖子)



## 久留米市下水道50周年記念

### 「久留米市上下水道フェア」イベントに参加して

夏の暑さがやっと収まり、さわやかな  
風が吹き始めた九月二十五日、安武の上  
下水道浄化センター主催のイベントで  
呈茶の接待が催されました。毎年久留米  
連合文化会の茶道部各流派当番で務め  
ております。新型コロナウイルスの感染  
拡大防止の為三年ぶりの開催です。



地域の人たちの楽しいイベントが行  
われ「久留米の下水道五十周年の記念展  
示」給水体験やステージイベントなど  
盛りだくさんの企画が準備されています。  
呈茶席は庁舎のフロアに「ばんこ」  
を用意され、テーブルと椅子で席作りと  
しました。ばんこの上に赤い毛氈を敷き

体験コーナーをしつらえしました。野点傘  
に「一粒万倍」短冊をかけ籠には秋の七  
草を挿し殺風景なフロアが立派な茶  
席に変身しました。開催時間より早くお  
客様が来られ、行列が出来るほど好評で  
す。親子連れの参加が多く、「はじめてお  
茶を点てました」「久しぶりに抹茶をい  
ただきました。とってもおいしかったで  
す」などの感想、小さいお子様が一生懸  
命点てようと必死で茶筌を動かす姿を  
見て、思わず胸キュンです。テーブル席  
も次々お茶とお菓子が出て三百のお菓  
子があつというまにくなりました。

久留米市の下水道が昭和四十七年に  
開始され五十周年、高度経済成長に伴う  
生活排水等が河川に流れ込むことによ  
り水質悪化の改善のため下水道の整備  
が進み只今普及率86・8%に達している。  
今後生活環境の改善や河川の水質保全  
を図り「未来に安心を届けたい」との企  
業管理者の言葉です。

少ない会員、久しぶりの茶会に戸惑う  
こと、多々センターの職員の皆様のお手  
伝いをいただき、あつという間の一日で  
した。水の大切さ、未来への安心を心に  
刻み心地良い風を感じ関係者の皆様に  
感謝「ありがとうございました」。

(茶道部・田中 宗俊)



## 第4回 総合文化部門展

〜境界線を超えて〜

今年総合文化部では「境界線を超えて〜」というテーマでステージ演奏会と作品展示との同時開催を行いました。

### ステージ演奏会

## BEYOND THE BORDERS

〜境界線を超えて〜

12月16日(金)久留米シティプラザ久留米座に於いて開催しました。

ステージではクラシック演奏と書画部の共演で開幕。

二番手Shinesは平和への願いをフオークの定番曲に込めました。続いて4つのゴスペルチームとジャズバンドが華やかに共演。謡曲部の披露では、凛とした静寂を味わいました。

終盤は全国で活躍するジャズ音楽家に



よる一期一会の演奏や、ジャンルの垣根を越えたオールスターの共演があり、全体を通して「境界線を越えた」会となり、賑やかに終演いたしました。

誰かが「久留米の紅白歌合戦」と言う程に、豪華出演陣の共演は連文の歴史に新たなページを記しました。

以下参加者の感想です。

●クラシック・森口洋輔さん

時間の共有で描く高度な芸術をお客様に楽しんで頂けました。

●音響・丸山幸一さん

音楽と書画、洋楽と謡曲。欲張りな内容でしたが連文の可能性と存在意義を大いに感じました。次回の構想も沸々と湧きました。(ステージ文化部・廣重貴子)

### 作品展示

## 伝統文化・書画展

境界線を超えて・心を結ぶ

伝統文化・書画展を、12月16日(金)〜18日(日)久留米シティプラザ展示室2・3にて開催いたしました。

師走の忙しい中、大変多くの方にご観覧頂き厚くお礼申し上げます。

今回のテーマ『境界線を超えて・心を結ぶ』に合わせて文字離れた現代社会になれど、日本の文化を繋ぐきっかけを持ち味を生かした作品や、伝統的な水引きとのコラボ作品に取り組みました。



季節便りの年賀状をはじめクリスマスカード、お祝い袋、手作り絵本、プレゼント等、思考を凝らした照明作りにもチャレンジ致しました。日々を慈しむ伝統的なお茶、美しい色の水引作品を展示する事で空間を彩る事が出来ました。

また16日久留米座にご観覧のお客様に飾ってもらったクリスマスツリーや連文クラシックとのコラボで書き上げた「超」、曲調15分の演奏に合わせてイメージした絵「摩天楼」こちらは2m x 5mのキャンパスに(ほうき 段ボールゴムハケ 霧吹き)を使ってチャレンジした、作品も展示いたしました。

暮らしの中にある大切な文化をこれから先も残していけますように、努力していきますので、皆様どうぞ温かく見守って下さい。(書画文化部・野田弘樹)

## 日本礼道小笠原流創流90周年記念全国茶会

2022年10月2日(日)久留米シティプラザ和室於いて・中会議室・大会議室・小会議室於いて日本礼道小笠原流創流90周年記念全国茶会を開催しました。

コロナ禍で2年ぶりの全国茶会、晴天にも恵まれてお家元様を始め副家元様、北海道から鹿児島まで全国から200名ほのお客様にお出まし賜り一煎差し上げ事が出来た事は、大変光栄で、喜ばしい事でした。八女星野の伝統本玉露ととらやの主菓子にて久留米支部員一同にて心からのおもてなしをいたしました。

(茶道部・北川陽泉)



# 青木繁と連文の活動

連文では、郷土久留米が生んだ洋画壇の先覚者青木繁画伯を偲び讃える顕彰活動として、3年前(2019年・第66回まで)だけしし祭を行っており、また、現地の管理棟及び救護棟等の解体に伴い、会場の問題から現在開催に至っておりません。かぶと山での開催を希望されている地元山本町の希望もあり、まだ未調整の状態です。

顕彰活動としては、青木繁旧居において茶道部による「お茶を楽しむ会」や華道部による生け花展示が毎年行われておりますが、やはりかぶと山に強いこだわりを持っていた青木の顕彰事業としてしし祭の復活が望まれる処です。今後も地元との協議を含め、復活を模索していきたいと思っております。

## 予告 第21回ジュニア青木繁展

久留米市に生まれた青木繁は、若千17歳にして青雲の志をたて、芸術の道を極めるため単身上京した。浪漫主義の絵画を開花させ、我が国洋画界の鬼才と評され、歴史に残る活躍をしました。青木繁の画業を顕彰するとともに次代を担う若者に、芸術の清新な感動を体験させ、文化を育成していく心情を育てる場として本展(Web展示・2月1日(水)〜2月28日(火))を開催します。

## 青木繁旧居

### 「お茶を楽しむ会」

(江戸千家久留米不白会?)

例年7月の誕生日前後に、旧居では江戸千家が協力して「誕生茶会」を開催しておりますが、この2年ほど新型コロナウイルス感染症防止の為に中止してまいりました。本年は、旧居保存会の熱い要望もあり、保存会の協力を得て「お茶を楽しむ会」として、10月30日に開催しました。

秋の天気にも恵まれ、親子連れも多く、140名を超える参加がありました。普段着でテーブルを囲み、コロナ対策に気遣いつつ、一服のお抹茶を楽しんでいただきました。(茶道部・田中宗俊)



## 第7回久留米ジュニア文芸大会 2022受賞作品

### ◎大賞「川柳」中学校

遅れます 返信既読 ちよう速い

久留米信愛中学校二年 緒方輔久

### ◎特選「短歌」中学校

ギラギラと輝いている筑後川君の背  
中を照らす夕焼け

城南中学校一年 湯川玲愛

大会で負けて悲しみ努力する泣いた  
分だけ成長していく

城南中学校二年 小坪敦乙

ホクホクかトロトロどっちか争って  
ホクホクの勝利秋は焼き芋

城南中学校二年 中垣心晴

### ◎特選「俳句」小学校低学年

かぶとむしぎにのぼったよかつこい  
南薫小学校二年 ふかまちあつし

### ◎特選「俳句」小学校高学年

夏休みすこしさみしいひとりっ子  
東国分小学校六年 山口璃旺

### ◎特選「俳句」中学校

秋風に吹かれる猫の抜け毛かな  
久留米信愛中学校三年 大庭博夢

### ◎特選「川柳」小学校低学年

がんばるぞ しょうだんしけん  
なつやすみ

田主丸小学校一年 いけじりそつま

### ◎特選「川柳」小学校高学年

みずでっぼう はっしやをしたら  
そらになじ

田主丸小学校四年 伊藤和弥

### ◎特選「川柳」中学校

催眠か 国語の授業 ねむくなる

久留米信愛中学校二年 飯田端月

今さらながら子供の感性の豊かさには驚かされてしまいます。心を打つた皆さんの作品の応募、有難うございました。(文芸部門)

## 写真部会員個展

### 那珂川市と朝倉市在住の二人

那珂川市在住の山中美恵子氏は水のある風景を中心とした作品 50点をスタジオ喫茶のユニークな場所において2022年10月16日から10月31日に開催、100名を超える来館者でにぎわった。特に、熱心な女子高校生の質問に対する山中氏の細やかな説明と配慮ある対応には感心させられた次第である。

朝倉市在住の安岡義之氏は大きなショッピングセンター二階に設けられた会場での開催であり、全紙作品 48点による「感動を求めて」として、多くの人に写真の醍醐味を感じていただける展覧会となっている。そして、安岡氏は朝倉の「山田堰、堀川の三百五十年史」編さんの写真担当、故郷の農業遺産の撮影を主として活動している。(12月1日から翌年1月10日まで開催)

なお、以上紹介した二人は久留米光画会所属の会員である。(写真部広報委員)

## 第71回久留米市総合美術展

三年來の久留米市総合美術展につき、応募点数が減少しました。これは各部門の先生方にはショックが大きかった事でしょう。

開催する側と市の行政側にも責任があったと思われます。コロナ禍の中で如何に広報情報を細目に連携を取り合い、資金なげ渡しでは無く市制・連文がもつと慎重に話し合いが必要に思います。

作品の数の割には、入賞者のレベルは非常に高かったという各部分からの報告は受けています。

(副会長／総実実行委員長・井上泰三)



●久留米市長賞の受賞者をご紹介します。  
日本画 「クロヒカゲ」

藤野 嘉紀 (太宰府市)

水墨画 「花手水」

平井 由起 (大木町)

洋画 「街角」

岩橋 則好 (神埼市)

彫刻 「漂」

小西 一記 (久留米市)

工芸 「梅雨の華」

三好 俊枝 (久留米市)

書 「支那山再饒文交木太守」

廣津 晶子 (久留米市)

写真 「夕陽の光線」

中村 光男 (久留米市)

デザイン 「見た目」と見た「目」

原野 凌 (古賀市)

### 「久留米市総合美術展」に思う

#### 応募者半減について

この状況、写真部にあつたが応募数の事前把握ができない現在の運営では、対応の術がない。応募のアナウンスのタイミングや作品受付の流れなど、

①日程的余裕が必要では？

②会期前に応募受付ができないか？

③応募者の作品搬入時、受付は一ヶ所済むように改善出来ないか？など、

応募者への配慮をお願いしたい。

#### 開催時期などについて

地元からの応募者が少なく、写真部の場合、市内17名に対し市外からは55名とした状況があり、他地域市展開催時期への配慮が必要である。また、写真部では高校生の応募者が皆無である。高校生枠を別に設けることはできないか？例えば、出品料が無く、ウェブ応募も可などとした方法によることなど。

#### 作品搬入受付業務は会員以外で

会員の年齢層が上がっているため、作品搬入受付業務は外部委託が望まれる。出品料が必要な公募展ながら、運営などの経費上から業務の外部委託には躊躇せざるを得ないと思われるが、会員が担う業務とそれ以外の部分で取り扱うところの役割りなど、事務的分担を含めて分かりやすく明確な運営方法にすべき、と思えますがいかがでしょうか？審査員が受付業務を行わざるをえない状況は問題である。

#### 美術館の壁面利用において

第三期は、大幅な空きが生じた。このことは、市美術館での開催と恵まれた会場であることから、そのようなことがないような対応が重要だと思われるが、いかがでしょうか？本市の展覧会が他地域より魅力的なものとして「市展」の代表格が「久留米市総合美術展」と言われるようになれば、と考えます。

高齢化した会員による受賞作品の撮影

これは、パンフレット掲載のためにその撮影が写真部に任せられた状況にあること、その部会審査終了後のながれの中の対応であり、無理があると考えます。なぜなら、撮影には照明などの条件を満足させるなど、いろんな機材とスタッフが必要であり、また現在の高齢化した会員による対応では無理な状況にある、と考えるためである。

#### 高校生新聞部の取材

総合美術展、会員展を終えて、会期中に聴かされた指摘や意見について、広報の立場からその捉え方や考え方を含めて問題提起と今後の改善策を示してみた。会場では高校生新聞部の取材と思われる光景が見られた。若い人の美術への関心が深まれば、それは大変喜ばしいことであり、大事にしたいと思ったところである。



(写真部広報委員・中村金次)

## ◎日誌◎報告 2022年(令和4年) 8月～12月 report

水天宮献茶(裏千家不白流九州支部)	8/6(土)・水天宮
第22回フジタバレエ研究生発表会	8/7(日)・石橋文化ホール
第7回ジュニア文芸大会(公募)	8/1(月)～9/7(水)・久留米連合文化会事務局
杉並児童合唱団 久留米公演	8/8(月)・久留米シティプラザ
第41回会員華道展	9/8(木)～9/11(日)・久留米シティプラザ 2F展示室
先々代会長 田中仙樵法要茶会	9/11(日)・国分寺(久留米市宮ノ陣)
大日本茶道学会福岡地区研修会	9/23(金)・大濠公園日本庭園
上下水道フェア(表千家不白流九州支部)	9/25(日)・南部浄化センター
ドクターズブン アートであそぼう!	9/25(日)・久留米シティプラザ 久留米座
観月茶会(裏千家淡交会)	10/1(土)・六角堂広場
日本礼道小笠原流創流90周年記念茶会	10/2(日)・久留米シティプラザ 4階・5階
松本明也展	10/4(火)～10/10(月)・久留米市一番街多目的ギャラリー
高良大社献茶(表千家不白流九州支部)	10/10(祝)・高良大社
山中美恵子写真展	10/16(日)～10/31(月)・スタジオ喫茶
筑後川古代史フェスタ	10/16(日)・久留米シティプラザ 中会議室
青木繁旧居「お茶を楽しむ会」(江戸千家久留米不白会)	10/30(日)・青木繁旧居
第71回久留米市総合美術展	11/9(水)～11/27(日)・久留米市美術館 1階
第51回会員美術展	11/9(水)～11/27(日)・久留米市美術館 1階
日吉神社献茶(表千家不白流九州支部)	11/11(金)・日吉神社
第68回桃青忌俳句大会	11/12(土)・コミュニティセンター御井
第74回久留米市茶道連合会 法要大茶会	11/13(日)・梅林寺
草月流AICF社中展	11/25(金)～11/27(日)・久留米シティプラザ 2F展示室
倉富政憲 新作やきもの展	11/26(土)～12/20(火)・道の喫茶「もり辺」(田主丸町)
第29回賢順記念全国箏曲祭	11/27(日)・久留米シティプラザ 久留米座
安岡義之写真展「感動を求めて」	12/1(木)～1/10(火)・イオン甘木店
第73回西部示現会展	12/6(火)～12/11(日)・久留米市美術館 1階
第67回助け合い茶会	12/11(日)・久留米シティプラザ
第21回ジュニア青木繁展(公募・搬入)	12/12(月)～12/16(金)・久留米連合文化会事務局
第10回水墨画部展	12/13(火)～12/18(日)・久留米市一番街多目的ギャラリー
第4回総合文化部門展 演奏会	12/16(金)・久留米シティプラザ 久留米座
書画展	12/16(金)～12/18(日)・久留米シティプラザ 展示室
ふるさとの名曲久留米クリスマスコンサート	12/24(土)・久留米シティプラザ 久留米座
青木繁旧居 生け花展示(草月流万年青年会中野松芳社中)	通年・青木繁旧居
JR久留米駅 生け花展示(小原流・草月流・嵯峨御流/毎週交代) 通年・JR久留米駅構内	通年・JR久留米駅構内

## ◎芸術散策◎行事のお知らせ 2023年(令和5年) 1月～7月 information

第49回書道部書作家展	1/11(水)～1/15(日)・久留米市美術館 1階
第50回連文謡曲大会	1/22(日)・久留米シティプラザ 久留米座
初釜茶会(大日本茶道学会久留米支部)	1/22(日)・国分寺(久留米市宮ノ陣)
連文役員新年会	1/28(土)・ホテルマリタール創世
第21回ジュニア青木繁展 Web展示	2/1(水)～2/28(火)・久留米連合文化会HP
第68回久留米連合文化会茶道部大茶会	2/19(日)・久留米シティプラザ 4F・5F
利休忌茶会(大日本茶道学会久留米支部)	2/26(日)・国分寺
利休忌茶会(裏千家淡交会久留米支部)	3/19(日)・よしの園
第41回水墨画心象会展	3/28(火)～4/2(日)・久留米市一番街多目的ギャラリー
久留米歌壇第39集発行	4/1(土)発行
第5回緑人会写真展	4/4(火)～4/9(日)・えーるピア久留米市民ギャラリー
池坊福岡県連合支部	4/7(金)～4/10(日)・久留米シティプラザ 展示室
玉垂宮献茶(表千家不白流九州支部)	4/9(日)・玉垂宮
久留米文学第70号発行	5/1(日)発行
水天宮献茶	5/3(水)・水天宮
令和5年度連文定期総会・祝賀会	5/27(土)・ホテルマリタール創世
第59回久留米短歌大会	5/28(日)・石橋文化会館 小ホール
創部70周年デザイン部展	6/6(火)～6/11(日)・福岡県立美術館
第57回仲縄忌俳句大会	6/27(火)・遍照院・えーるピア久留米
仲縄忌供茶(裏千家淡交会久留米支部)	6/27(火)・遍照院
第25回短歌部歌評会	7月予定・えーるピア久留米
青木繁旧居 生け花展示(草月流万年青年会中野松芳社中)	通年・青木繁旧居
JR久留米駅 生け花展示(小原流・草月流・嵯峨御流/毎週交代) 通年・JR久留米駅構内	通年・JR久留米駅構内

訃報(令和4年8月～12月) 謹んでご冥福をお祈り致します。

伊藤 晶子さん(謡曲部) 令和4年8月25日

仲 富士登さん(写真部) 令和4年9月2日

